



やればできる —自尊感情の醸成—

◆子供たちが「**自分は、やればできる**」という実感（自己効力感）を抱くことは、自尊感情の醸成につながります。

◆そのため、**日々の教育活動で重視したい事柄**が二つあります。

◆一つは、「**挑むこと**」です。「挑」と「逃」、つまり「挑む」と「逃げる」は充てる漢字こそ似ていますが、相反する行動です。子供たち一人一人が失敗を恐れずに物事に挑戦することにより、「やればできる」ことを実感できるようにさせたいものです。



◆もう一つは、「**努力**」です。「**努力に勝る天才なし**」という言葉があります。ここでいう「天才」とは、「天賦（てんぷ）の才能」、つまり持って生まれた才能のことです。「**地道にコツコツと努力することは、どんな天賦の才能にも勝る**」という意味です。

発明王**エジソン**の「**天才とは、1%のひらめきと99%の努力である**」という言葉は有名です。

江戸時代の米沢藩主である**上杉鷹山（ようざん）**は、次の言葉を残しています。

「**為せば成る、為さねば成らぬ、何事も、成らぬは人の為さぬなりけり**」どんなことでも、やろうと思って努力すれば、必ず実現できる。逆に、無理だと思ってあきらめ努力しなければ、絶対に実現できない、という意味です。

◆子供たち一人一人が、「**逃げずに挑む**」、「**努力を尊ぶ**」、そうした学校の風土が、自尊感情の醸成を促します。

楽しいより正しい

大リーガー 大谷翔平

高校時代、「楽しいより正しいで行動しなさい」と言われてきたんです。
クリスマスに練習したのも、楽しいことより正しいことを考えて行動した結果。

出典：「大谷翔平は、こう考える」（桑原晃弥著 PHP文庫）

※ 佐々木監督の教えが、大谷を支え続けています。